

日本自然保護協会 平成 22 (2010) 年度 事業報告

(平成 23 年 5 月 26 日理事会議決、平成 23 年 6 月 16 日評議員会承認)

I. 財団法人の記録

1. 公益財団法人への移行

平成 22 年 10 月 15 日 公益財団法人への移行認定申請
平成 23 年 3 月 25 日 公益財団法人への移行認定取得
(平成 23 年 4 月 1 日 移行登記)

2. 役員等の異動

退任 理事 5 名、評議員 21 名、参与 10 名 (平成 23 年 3 月 31 日 公益財団法人への移行により)

3. 会員数 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

(1) 普通会员	() 内は昨年度との差異
個人会員	12,092 人 (-155 人)
ファミリー会員	2,745 人 (-48 人)
ユース会員	56 人 (-38 人)
(2) 団体会員	435 口 / 253 団体 (-42 口 / -20 団体)
(3) 賛助会員	73 口 / 41 法人 (-11 口 / -4 法人)
(4) 寄付サポーター	751 件 (+31 件)
(5) アクションサポーター	8,798 件 (+4,196 件)
合計	24,950 人・口

4. 会議

(1) 理事会

・6 月 11 日 定例理事会 / (議決)	第 1 号議案	平成 21 年度事業報告・収支決算
	第 2 号議案	新公益財団法人の定款案
	第 3 号議案	新公益財団法人への移行認定申請書提出及び役員等就任予定者名簿
	第 4 号議案	役職理事の選出
	第 5 号議案	新公益財団法人の最初の評議員候補者の推薦
	第 6 号議案	最初の評議員選定委員会委員の補充選任
	第 7 号議案	参与の選任
・11 月 22 日 理事会書面採決 / (議決)	第 1 号議案	公益財団法人日本自然保護協会の「常勤役員等報酬規程」の制定について
	第 2 号議案	公益財団法人日本自然保護協会の「会員規程」の制定について
・2 月 24 日 臨時理事会 / (議決)	第 1 号議案	基本財産の新規繰り入れ及び平成 22 年度補正収支予算

- ・3月24日 定例理事会／（議決） 第1号議案 2011(平成23)年度事業計画および収支予算

(2) 評議員会

- ・4月23日 定例評議員会／（同意） 第1号議案 平成21年度事業報告・収支決算（案）
（議決） 第1号議案 新理事・監事候補者の選任
- ・7月8日 臨時評議員会／（議決） 第1号議案 新公益財団法人の定款案
第2号議案 新公益財団法人の役員等就任予定者名簿
及び移行認定申請書提出
第3号議案 新公益財団法人の最初の評議員候補者の
推薦
- ・2月21日 評議員書面評決／（同意） 平成22年度補正収支予算（案）
- ・3月24日 定例評議員会／（同意） 第1号議案 2011(平成23)年度事業計画・収支予算（案）

(3) 委員会等

- ・最初の評議員選定委員会（7/22）
- ・プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成運営・審査委員会（8/6、9/7）
- ・モニタリングサイト1000里地調査 検討委員会（6/15、11/29）
- ・自然観察指導員講習会講師会議（2/13）

5. 意見書等の公表

(1) 意見書・要望書等（代表者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、3件の意見・提言を提出した。（12頁・別表1）

(2) 声明・パブリックコメント等（主に業務担当責任者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、12件の声明・パブリックコメント等を提出した。
（12頁・別表2）

6. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる39件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。（12頁・別表3）

7. 印刷物の発行

(1) 会報『自然保護』

- ・第515号～第520号（年6回、奇数月発行、44頁、各号約16,000部）

(2) 報告書・資料集

- ・資料集No.49『くらしと自然のつながり再発見！』（2,000部）

(3)パンフレット等

- ・組織概要パンフレット（和文 3,000 部、英文 1,000 部）
- ・入会案内パンフレット・個人会員（80,000 部）
- ・寄付リーフレット（2 種類、計 60,000 部）
- ・冊子『日本の生物多様性－「身近な自然」とともに生きる』（2,000 部）
- ・「自然しらべ 2010 みんなで夏の川さんぽ」調査マニュアル（50,000 部）
- ・「自然しらべ 2010 みんなで夏の川さんぽ」結果レポート（18,000 部）
- ・「全国一斉自然かんさつ会 2010」一覧（27,000 部）
- ・『Rediscover Connection between Our Life and Nature ! 』（1000 部／『くらしと自然のつながり再発見！』抜粋・英文版）
- ・辺野古緊急調査「辺野古の海」ポスター（2,000 部）
- ・「みんなで考える赤谷の森のこれから」（「赤谷の森・基本構想」の概要）（2,000 部）

(4)発行図書

- ・『改訂 生態学からみた野生生物の保護と法律』（NACS-J 編集・講談社発行・1,000 部）

II. 事業報告書

平成 22 年度として以下の業務を実施した。

1. 保護プロジェクト事業

(1) 辺野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動 ～海の生物多様性を守る

① 辺野古・大浦湾

普天間飛行場移設事業の勝連沖案や棧橋案などについて、自然環境上の問題を整理し、メディアや議員などに向けてコメントとして発信した。日米両政府による代替基地案の位置規模などの公表のタイミングに合わせ、辺野古の海域の緊急調査を企画・実施した。地域 NGO の協力のもと海草藻場・底生生物・葉上貝類・ジュゴンのほみ跡などを調査し、その結果から現状の生物多様性の重要性をまとめ、記者会見などで発信し、計画の見直しを求めた。また、大浦湾・アオサンゴ群集調査も継続し、地域のサンゴ礁の保全について集会を開くなど意見交換を行った。

② 泡瀬干潟

工事前から毎年実施している海草藻場やサンゴ群集のモニタリング調査を実施した。調査結果に基づき、本格的な埋立工事実施後に起きている砂州などの地形変化、浅場への土砂の堆積、海草藻場やサンゴの消失を指摘、事業の中止と原因の究明、干潟の保全措置の実施等を要請した。また、現地において、調査活動に基づく問題指摘を共有できるようシンポジウムを企画・実施した。

(2) 各地の自然保護問題の解決 ～保護活動の地域支援

地域 NGO からの要請にもとづく現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力等により、保護地域の拡充・新設自然保護施策の実行に向けての働きかけや、各地の保護問題の状況把握および交渉活動を行った（12～17 頁・別表 3～4）。

- ・北海道・銭函風力発電計画に対し地域団体とともに見直しを求め、アセス法の風力発電事業の対象化に対し規模要件など政府・検討の場に提言を行った。
- ・『改訂 生態学からみた野生生物の保護と法律』（NACS-J 編集・講談社発行）を COP10 開催に合わせて、発行した。

(3) AKAYA プロジェクト ～森林管理の生態系管理モデルの確立～

日本で初めてとなる生物多様性保全型の国有林の管理計画（赤谷の森管理経営計画書）を、市民参加のプロセスで策定した。また、新たに 10 年間の生物多様性の保全と社会の持続性に向け、林野庁関東森林管理局との『『三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画』推進のための協定書』の更新を、地域協議会を加えた三者で取り交わした。

① プロジェクト総合事務局業務

意思決定会合「企画運営会議」「調整会議」を運営し、赤谷の森管理経営計画書の策定

(2/1 公告縦覧開始) と、新たな協定の締結 (3/30 合意) を行った。また、新たにみなかみ町との関係構築をはかり、定期的な協議も開始された。COP10 に関連した催事、講演依頼、CSR活動、各種取材、等に対応しプロジェクトの広報と支援者開拓を行った。

②生物多様性復元と持続的地域社会づくりの手法開発 (関東森林管理局委託+自主)

- ・ 自然環境モニタリング会議と7つのワーキンググループによる科学的なモニタリングの成果を、国有林管理に反映させる具体的な事例をつくった。
- ・ 赤谷プロジェクトサポーター (ボランティア) の協力による、広域の市民参加型の国有林管理手法の研究として「赤谷の日」を中心にサポーター活動を運営し、活動拠点 (いきもの村) の利用ルールの変更や、運営方法の改善を続けた。

③赤谷型・生態系管理プロジェクトの総括・展望の検討 (自主)

- ・ 理事・職員によるワーキンググループを計6回実施検討し、今後も多様な主体が関わる環境管理モデルとして、新たな地域資源管理のしくみへの展望を確認した。

(4)小笠原プロジェクト ～島の生態系の保護管理への提言

① (GET) 区分解析による母島の保全管理の提案 (トヨタ環境活動助成プログラム)

母島における各種保全施策検証のために地生態学にもとづくジオエコタイプ (GET) 区分解析作業をすすめ、優先すべき保全施策と場所を抽出し、関係者への情報提供や提案をはじめた。

②小笠原南島モニタリング調査 (東京都委託)

南島のモニタリング調査を継続実施し、利用による自然環境への影響についての検証をおこなった。研究者等による検討会を開催し、モニタリング調査の今後やクマネズミ等外来種の監視・対策の必要性を検討した。また、10年継続してきたモニタリング調査の成果をもとに、利用のルールについても島内関係者による意見交換の場を設けた。

(5)尾瀬プロジェクト ～山岳保護地域の保全管理への提言

脆弱な環境下の登山道のあり方を明らかにし国立公園の保全管理のモデルを構築できるよう、特に、至仏山登山道学術調査のコーディネイト業務 (尾瀬保護財団受託) を実施し、一部迂回路の候補ルートの調整をはじめた。

(6)生物多様性の道「もり・かわ・うみ・いきものバンザイ! ツアー」

NACS-J が関わってきた現場を中心にスタディーツアーを、川辺川 (8/6-8)、吉野川 (8/21-22)、サンル川 (9/23-24)、赤谷の森 (10/1-3) にて、地域 NGO との共催・パタゴニア日本支社の協賛により開催し、「自然の恵み (生態系サービス)」を実感し、流域管理のあり方を考える機会をつくった。

(7)ライブラリー情報整理・活用

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムの整備を進めた。

2. 保全研究事業

(1) 生物多様性の道プロジェクト

生物多様性条約 COP10 の機会を活用して、地域の生物多様性保全を促す活動を実施した。

「市民による五感で捉える地域の生物多様性・生態系サービスモニタリング」では、全国約 150 地域の保全活動団体からデータが寄せられ、現在のわが国の生物多様性と生態系サービスの現況の一断面が明らかになった。

市民調査の活性化を目的として初の「市民調査全国大会」を 2 日間にわたって開催し全国から延べ約 300 人が参加した。大会では基調講演、分科会、発表会（65 団体参加）、体験学習会から構成され、市民団体や研究者、行政など様々な主体により市民調査の現場における知恵や工夫を共有しあうことができた。

(2) 市民主体の身近な自然のモニタリングと保全・再生活動

① 里やま保全研究

これまでの科学的知見や NACS-J の市民参加型調査で得られた調査データを積極的に活用・発信し、宍塚の里山（茨城県）の日本ユネスコ未来遺産への登録や中池見湿地のラムサール条約登録湿地の国内潜在候補地域への選定などを推し進めることができた。また、生物多様性国家戦略の分野別行動計画である里地里山保全活用行動計画の策定への働きかけを通じて、国家レベルでの生物多様性モニタリングにおける市民・NGO セクターの役割の重要性を計画に位置付けることができた。

② モニタリングサイト 1000 里地調査（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）

（環境省生物多様性センター請負）

全国 194 ヶ所のサイトで市民主体によるモニタリング調査を継続し、1300 名以上の市民が調査員として参加した。調査データの解析からは、植物や鳥類などの種多様性についての全国的なパターンを把握できたほか、アカガエル類の個体数が非常に少ないなど水辺・移行帯の環境が悪化しているサイトが少なくない可能性も示された。また事業開始以来初めてとなる「サイト交流会」を中池見湿地（福井県）で開催してのべ 77 名が参加し、調査継続や成果活用の工夫についての情報共有が図られたほか、中池見湿地の価値を発信することで現場の保全を進めることもできた。

(3) 照葉樹林保全研究

① 綾の照葉樹林プロジェクト

口蹄疫の影響で国際照葉樹林サミットは延期されたが、ブータンや中国から照葉樹林についての専門家を招聘し、照葉樹林研究フォーラムを実施し意見交換を行った。間伐前の林床植生の把握を行うため、市民参加で調査を実施した。調査された結果は SISPA のデータベースに登録し、関係者間でデータ共有できるようにした。綾町の MAB（人間と生物圏計画）の生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）への登録申請に向け協力をした。

②SISPA（戦略的保全地域情報システム）

風力発電、生物多様性の道プロジェクトへの登録地など新しいサイトへのデータの登録、整理作業を行い、協会内部、会員向けに一部のデータを公開できる仕組みを整えた。

綾の照葉樹林プロジェクト、ふれあい調査、綾町のエコパーク申請の際に地図データを取りまとめ登録申請書、事業説明会資料、検討資料作成等に活用した。

生きもの情報館を活用した事業として「水辺の外来種しらべ」をNTT データと協力して全国 10ヶ所で実施した。各地の指導員の協力のもと、NTT データ社員および家族 320 名が参加し、調査した結果を登録した。生きもの情報館にはそれ以外にも、2010 年度で約 8000 件のデータが蓄積され、広く市民に活用された。

(4) 国際研究

① 国際業務

国際会議での情報収集を行った。COP10 に向けて NACS-J の意見をポジションペーパー（日英文）としてまとめ、環境大臣や条約事務局関係者などに提言し発表した。COP10 前には COP10 初心者のためのガイダンスを実施（9 月）し、年間を通じて全国各地での COP10 に向けた勉強会及び報告会を行った。COP10 後「NACS-J から見た CBD-COP10 の成果と今後の課題」を取りまとめ、沼田眞賞授賞式と合わせて開催したセミナーにて発表を行った。

② 国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）事務局運営

生物多様性条約関連会合（科学技術助言補助機関会合（SBSTTA）・条約の実施とレビューに関する作業部会（WGRI）5 月ナイロビ、国連総会生物多様性ハイレベル会合 9 月ニューヨーク）等に参加し COP10 に向けた情報収集と発信を行った。

将来行動計画立案プロジェクトとして、COP10 の主要成果である愛知ターゲットを市民の目から読み解くワークショップを、全国から 60 名の専門家・関係者とともに開催した。

③ CBD 市民ネット参画

CBD 市民ネット運営委員としての協力に加え、東京事務局コーディネーターという役割で、CBD 市民ネットによる COP10 準備、特に CBD 市民ネット全体のポジションペーパーの起草や各作業部会のポジションペーパー作成などの政策提言をおこなった。その結果、普及啓発（CEPA）に関する決議、国連生物多様性の 10 年決議の実現につながった。

(5) ふれあい研究

綾の照葉樹林プロジェクトにおいて、綾町古屋地区で地域住民と共にふれあい調査を実施し、地域の人と自然のふれあいの記録集を作成するためのデータ整理を行なった。

3. 教育普及事業

(1) 自然観察指導員養成

① 指導員講習会

市民団体（自然観察指導員連絡会：6回）、自治体（3回）、企業（2回）との共催により、全11回の講習会を開催し、603名の指導員を養成した（17頁・別表5、初回以降総登録者数25,489名）。講習会受講者に対して、自然保護の手段の一つとしての自然観察会の役割とその手法を普及し、指導員としての立ち位置や役割に関して理解を図り、今後の指導員の活躍を促した。

また、講師との連絡や会議、ヒアリングを通じて、講師間での情報共有、課題を再確認し、講習会プログラムの改良を行った。

② 指導員フォローアップ

・ フォローアップ研修会の実施

指導員のスキルアップを目的とし、愛知県との共催で「冬の自然観察手法を学ぼう」研修会（1月22日-23日実施）を実施した。さらに、内容を新たにし、ネイチャー・フィーリング研修会（2月26日-27日）を環境省新宿御苑事務所と共催した。参加者の自然の見方をひろげ、自然観察会でのさまざまな参加者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ場を提供した。

・ 自然保護セミナーの実施

法律や制度など自然を守るしくみを学ぶ機会として、夜間連続セミナー「だれも教えてくれなかった 自然のまもり方」（月1回/全5回・11/10、12/14、1/19、2/16、3/2、番外編2/19）を実施した。延べ280人が参加をし、自然保護にかかわる法律や制度の問題点や、活用するための視点などを学ぶ場を提供した。

・ 新規研修会の企画と試行

地域の保全行動計画づくりを先導し、地域の保全活動をすすめていくコンサベーションプランナー研修会の企画と資金調達を行った。実際に保全行動計画をつくる地域において、専門家による事前のワークショップを行い、来年度の実施の準備を進めた。

③ 指導員管理

指導員向けメールマガジン「しどういん徒然草」を月2回配信し、指導員活動に役立つ情報の提供に努めた。

また指導員向けのオリジナルグッズ（フェイスタオル）をつくり、指導員との連帯感を高め、NACS-Jの活動をPRするアイテムとして活用した。

(2) 環境教育一般

① 全国一斉自然かんさつ会

多くの人に身の回りの生物多様性に気づく機会となる観察会に参加してもらうために、国際生物多様性の日および環境月間にあわせて5月～6月に全国の指導員が開催する生物多様性に関する観察会情報を152件集め、ウェブサイトや新聞などの媒体で広報した。

②自然しらべ 2010

身近な場所の生物多様性に気づき、また川の自然を考える機会として、市民参加型の環境教育プログラム「自然しらべ 2010 みんなで夏の川さんぽ」を実施した（通算 15 回目）。共催：読売新聞東京本社、協賛：2 社、誌面協賛：11 誌、協力（Web 広報・参加者プレゼント）：3 社、アシスタントスタッフ（損保ジャパン CSO ラーニング制度生）2 名、資生堂社員ボランティア 16 名、実施期間 7/1～9/30、参加者数：2,246 名、観察地点 391 カ所。

③企業・団体対象

賛助会員や、事業への協賛、寄付企画等を通じて NACS-J の活動を支援して下さる 5 つの企業に向けて、社員や社員の親子向け観察会を行った。

「生物多様性の道」に登録した場所の保全管理に関わる 150 以上の団体の活動を応援し、その支援者を拡大することを目指して、団体の情報をとりまとめて「生物多様性自然の守り手リスト」を作成し、7 月に開催した市民調査全国大会の参加者全員に配布するとともに、ウェブサイト上に公開した。

④普及活動

NACS-J のすすめる自然保護のための自然観察を普及するため、自然環境情報広場丸の内さえずり館で、「自然観察 はじめの一步」企画展示を実施した（4/1-5/19）。また企画展示期間内イベントとして 2 回の「自然観察ミニセミナー」（会報連動企画として「絵本を使って自然観察」、自然しらべ連動企画として「川の自然をかんさつしよう」）を実施し、同時期にミニ自然観察会を 3 回実施した。

⑤その他（外部対応協力）

- ・一般市民向けのシンポジウムやセミナー、また行政の人材養成事業などへの講師の依頼、講師紹介の依頼等に積極的に応え、NACS-J の進める自然保護活動の普及、各種事業への参加の呼びかけを行った（13～17 頁・別表 4）。
- ・総合学習への取り組みの中で行われる、学校からの訪問学習を 1 件受け入れ、NACS-J の活動を紹介し、自然保護の重要性を伝えた（藤沢市立村岡中学校 5 名）。

(3)活動・研究支援

- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（(財)自然保護助成基金との共同事業）

平成 22 年度（第 21 期）助成の募集・審査を行い、19 件の国内外の研究・活動グループおよび個人に計 1,972 万円の資金支援を行った（18 頁・別表 6）。

平成 20 年度（第 19 期）助成の成果報告書を作成し、平成 21 年度（第 20 期）助成の成果報告会を開催（12/11、東京表参道・こどもの城、約 90 名参加）した。

4. 広報・編集事業

(1) 広報事業

① 広報ブースの出展、講演等での広報

- ・ CBD・COP10 生物多様性交流フェアにブースを出展して、NACS-J の活動紹介パンフの配布、会報プレゼント等の広報を行った（2010 年 10 月 11 日～29 日）
- ・ イベントでのブース出展・展示パネル提供、講演等を通じて、イベントの各関連事業について広報を行った（モンベルクラブフレンドフェア幕張・大阪、江戸川大学こども環境会議、日本第四紀学会 など）。

② パンフレットの作成、配布

- ・ 入会パンフレット、寄付リーフレットを作成し、配布を行った。主催事業のほか、イベント会場や自然観察会などへの配布協力依頼、会員等の協力者に配布を依頼した。自然系施設にはパンフレット常設を依頼（約 650 カ所）。

③ その他

- ・ 退会者へ DM を送付し、再入会を呼びかけた。
- ・ 寄付拡大 募金箱の設置協力依頼（23 カ所）。企画型寄付の受け入れ（新規 17 件）。
- ・ その他外部依頼対応（インターンシップの受け入れ、ほか）

(2) 会報『自然保護』の発行

年 6 回（第 515 号～第 520 号）、各約 16,000 部を編集・制作した。CBD・COP10 開催にあわせ 3 号連続「生物多様性条約 COP10 シリーズ」を特集した。

[各号特集]・キノコがつなぐ生命の環・人の環（第 515 号、5/6 月号）

・ 遊んで学んで守る川（第 516 号、7/8 月号）

・ 生物多様性条約 COP10 シリーズ①

ここに注目！ 5 つのポイント（第 517 号、9/10 月号）

・ 生物多様性条約 COP10 シリーズ②

生物多様性とともにある暮らし（第 518 号、11/12 月号）

・ 生物多様性条約 COP10 シリーズ③

COP10 で何が世界標準になった？（第 519 号、1/2 月号）

・ 「食」が広げる人のつながり（第 520 号、3/4 月号）

(3) NACS-J ウェブサイトの運営

2010 年度に構造を抜本的にリニューアルし、改良された構造に沿ってコンテンツを追加した。技術的な専門作業は外注化、内部作業は編集・執筆を中心とする体制に整理し、即時性が重要な意見書・コメント等はほぼ即日に掲載できるようになったほか、更新作業のルーティン化が整った。これらの改良によって、閲覧者一人あたりの閲覧時間・閲覧頁数が 3 倍強に増加した。とくにアクセスが多かったのは自然しらべ（7～8 月）、COP10（10～11 月）関連だった。全ページアクセスは 282 万 PV（1 日平均 7,700PV）だった。

(4) 「くらしと自然のつながり再発見！」(経団連自然保護基金助成事業)

会報『自然保護』で連載をした「くらしと自然のつながり再発見！」を、NACS-J ウェブサイトで掲載したほか、関連インタビュー記事等とあわせて冊子として発行した(昨年度記事に増補発行)。また、CBD・COP10に向けて抜粋英文版を作成し、会議場で配布したほか、環境教育教材としての活用希望者に配布した。

5. 会員管理・サービス事業

(1) 会員管理

① 会員数の維持・拡大

景気悪化により各会員とも減少が続いているため、個人会費等のカード決済導入や自動引落の利用促進、賛助会員企業への訪問等により、会員登録の継続を呼びかけ、個人会員数の維持と賛助会員数の拡大を図った。

② 一般寄付の拡大

個人からの募金寄付や遺贈、企業からの商品販売・催事等を通じた寄付キャンペーン企画の受け入れ等により、一般寄付の拡大を図った。

(2) 会員サービス

主催催事での直接販売や合資会社 狼森(おいのもり)への委託による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布した。

6. 顕彰・基盤整備事業

(1) 顕彰

第10回日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、授賞者を佐々木克之氏(河川から沿岸・干潟にいたる物質循環の研究と自然保護への貢献)、森林塾青水(茅場の再生と活用による文化と生物の多様性保全)、こんぶくろ池自然の森(こんぶくろ池湿地の調査・保全活動を通じた自然博物公園の実現)に決定し、授賞式および記念講演会を開催した。(1/22 於: 清澄庭園、約120名参加)

(2) 基盤整備

財団の重要資料である年次予算決算および事業報告・事業計画を、効率的に保存しかつ有効活用できるようPDF化した。

以上

別表 1. 意見書・要望書等の提出 (協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・ ポジションペーパー生物多様性条約 (CBD) 新戦略計画 (ポスト 2010 年目標) に向けて
(10/6・環境大臣等・和英文)
- ・ 泡瀬干潟埋立事業：沖縄県沖縄市の「東部海浜開発事業(土地利用計画沖縄思案)」への対応についての要請
(11/5・内閣府沖縄担当大臣)
- ・ 「銭函風力開発建設事業」の自然環境保全上の問題点と石狩海岸の自然・生物多様性保全を求める意見
(11/24・北海道知事・小樽市長)

別表 2. 声明・パブリックコメント等の提出 (主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先)

- ・ 米軍普天間飛行場移設計画 「勝連沖案 (ホワイトビーチ沖案) の断念」報道について (4/12・コメント)
- ・ 米軍普天間飛行場移設事業「キャンプシュワブ沿岸部浅瀬案の杭打ち栈橋方式」の問題について
(4/28・コメント)
- ・ 諫早湾干拓事業潮受堤防排水門の早期開門を求める共同声明
(5/24・ラムサールネットワーク日本など 4 団体で共同)
- ・ 泡瀬干潟埋立事業再開への緊急声明「泡瀬干潟の生物多様性を大きく破壊する見直し案に経済的合理性はない。埋め立て事業の中止、干潟の保全を求める」(8/6・沖縄市・沖縄県・内閣府)
- ・ 今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ (案) に関する意見 (8/15・国交省)
- ・ 諫早湾干拓の「開門」による有明海の生物多様性の回復を求める緊急共同声明
(12/14・首相、ラムサールネットワーク日本など 4 団体共同)
- ・ 中央新幹線小委員会中間とりまとめに関するパブリックコメント (1/14・国交省)
- ・ 海洋生物多様性保全戦略案に対するパブリックコメント (2/10・環境省)
- ・ 「生物多様性を破壊する防衛省の米軍ヘリパッド建設工事強行に抗議し計画の中止を強く要請します」
(要請文・2/23、WWF ジャパンら 4 団体共同)
- ・ 上関原子力発電所の強引な工事に抗議し、建設中止を求める緊急声明 (2/25・中国電力等)
- ・ 風力発電の環境影響評価法にかかわる規模要件に関する提案 (3/3・環境省・日本野鳥の会と連名)
- ・ 泡瀬沖合埋立事業に関する沖縄県知事の発言に対し環境省意見「埋め立ての回避」の徹底を求める
(3/15・コメント)

別表 3. 委員の派遣 (カッコ内は要請主体)

- ・ 北海道生物多様性検討委員会 (北海道森林管理局)
- ・ 大雪・日高森林生態系保護地域拡充設定委員会 (北海道森林管理局)
- ・ 留萌、ニシンの森自然再生プロジェクト委員会 (北海道森林管理局)
- ・ 保護林総合モニタリング検討委員会 (北海道森林管理局)
- ・ 希少野生生物常設委員会 (関東森林管理局)
- ・ 小笠原諸島森林生態系保護地域常設保全管理委員会 (関東森林管理局)
- ・ イヌワシ生態調査法検討委員会 (関東森林管理局)
- ・ 保護林総合モニタリング検討委員会 (関東森林管理局)
- ・ 「富士山・丹沢緑の回廊」モニタリング検討委員会 (関東森林管理局)
- ・ 小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議 (関東地方環境事務所、継続)

- ・尾瀬国立公園シカ対策協議会（環境省関東地方事務所、継続）
- ・至仏山保全対策会議（尾瀬保護財団）
- ・至仏調査専門委員会（尾瀬保護財団）
- ・特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地 理事（トチギ環境未来基地）
- ・林政審議会委員（林野庁）
- ・林政審議会国有林部会委員（林野庁）
- ・平成 22 年度森林環境保全総合対策事業（生物多様性森林対策事業のうち里山林における国民参加による保全活動等の検討）（林野庁）
- ・生物多様性保全活動の促進に関する検討会（環境省）
- ・エコツーリズム推進法・有識者会議（環境省自然ふれあい推進室）
- ・風力発電に関わる環境影響評価検討会（環境省環境影響評価課）
- ・「地球環境パートナーシッププラザ」運営委員会（環境省市民活動推進室）
- ・平成 22 年度野生生物保護対策検討会（環境省自然環境局）
- ・狩猟と環境を考える円卓会議（環境省鳥獣保護対策室、大日本猟友会）
- ・外来生物法施行状況評価検討会（環境省野生生物課、自然環境研究センター）
- ・東京都シカ保護管理計画検討委員（東京都、継続）
- ・平成 22 年度「東京都の保護上重要な野生生物種」（東京都 RDB）植物専門部会（東京都、自然環境研究センター）
- ・平成 22 年度小笠原諸島弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会（東京都、自然環境研究センター、新規）
- ・日本 MAB 計画委員会（日本 MAB 計画委員会）
- ・「綾森林生態系保護地域 保全管理計画の策定」に係る検討委員会（日本森林技術協会）
- ・千葉県特定外来生物（アライグマ）対策検討会（千葉県、継続）
- ・ちば環境再生推進委員会（財団法人千葉環境財団、継続）
- ・県立観音崎公園再生計画づくり専門委員会（神奈川県）
- ・長野県希少野生動植物保護対策委員会（長野県、継続）
- ・生物多様性を考える NGO・NPO、市民の Hyogo 対話企画運営委員会（財団法人ひょうご環境創造協会）
- ・やんばる森林生態系保護地域設定委員会（九州森林管理局）
- ・奄美群島森林生態系保護地域設定委員会（九州森林管理局）
- ・西表森林生態系保護地域拡充設定委員会（九州森林管理局）
- ・九州二次林取り扱い検討委員会（九州森林管理局）
- ・大隅地域照葉樹原生林の会 顧問（大隈地域照葉樹原生林の会）

別表 4. 催事等への後援・協力・職員派遣等（カッコ内は主催者・開催日）

- ・映画「オーシャンズ」上映会（日光劇場、2010/4～6）
- ・生活協同組合総合研究（生協総合研究所、4/19）
- ・あいちの自然観察会（名古屋自然観察会、4/25、5/9、5/30、6/27、7/11、8/22）
- ・第 83 回 国展（国画会、4/28～5/10）

- ・瀬戸内海の生物多様性の保全のための第2回三学会合同シンポジウム（日本生態学会・自然保護専門委員会、日本鳥学会・鳥類保護委員会、日本ベントス学会・自然環境保全委員会、5/1）
- ・身近な自然観察会（名古屋自然観察会、5/5）
- ・緊急シンポジウム&パレード いのちの海を埋め立てないで！～瀬戸内・長島の海から自然との共生を考える～（上関原発をどうするの？～瀬戸内の自然を守るために～、5/9、5/22、5/29）
- ・ABC朝日放送ラジオ『アース・ドリーミング～ガラスの地球を救え』（ABC朝日放送ラジオ、5/14）
- ・諫早湾干拓事業潮受堤防排水門の早期開門を求める共同声明への連名（ラムサールネットワーク日本、5/17）
- ・緊急院内集会「くい打ち栈橋方式をストップさせよう！」（WWFジャパン/JUCONネットワーク事務局、5/14）
- ・三重県理科研究会総会（三重県理科教育研究会、5/18）
- ・一造会「市民と造園家の交流会」（一造会 全国一級造園施工管理技師の会、5/20）
- ・いきものイキキ相生山まつり（相生山緑地の会、5/22）
- ・麻布大学 授業「技術系のキャリア形成」における講師（麻布大学獣医学部、5/24）
- ・東京バードフェスティバル2010（東京バードフェスティバル実行委員会、5/29）
- ・「山門水源の森を引き継ぐ会」10周年記念誌（山門水源の森を引き継ぐ会、5月）
- ・東京新聞生活面（東京新聞、5月）
- ・第27回“自然は友だち 私の自然観察路コンクール”（財団法人国立公園協会、6/1～9/21）
- ・「彩の国環境地図作品展」（彩の国環境地図作品展実行委員会、2010/6/1～2010/3/31）
- ・森林生態系スペシャリスト養成研修（関東森林管理局、6/3）
- ・環境週間（狛江市・狛江市環境を考える会、6/5）
- ・各党の環境政策を聞く会（環境エネルギー政策研究所、6/18）
- ・生物多様性国際ユース会議 in 愛知2010 日本人向け事前勉強会（環境省・代理エコリーグ、6/20）
- ・「アライグマ問題を総合的に考えるシンポジウム～ヨーロッパと日本」（関西野生生物研究所、6/27）
- ・「日本ユネスコ協会プロジェクト未来遺産」への推薦文（NPO法人穴塚の自然と歴史の会、6/30）
- ・月間「地理」（古今書院、6月）
- ・「土木学会群馬総会」（土木学会関東支部群馬会、7/5）
- ・「日本の森と赤谷プロジェクトの取り組み」講義（群馬県立利根実業高等学校、7/9）
- ・第13回（2011年）「日本水大賞」（社団法人日本河川協会内、7/7～11/30）
- ・「ふるさと海辺フォーラム2010」～ハマボウフウ・ネットワーク～自然豊かな海辺環境を次世代へ伝えていくために（石狩市石狩浜海浜植物保護センター、7/10）
- ・Eco～ちょっといいことはじめる～（福井エフエム放送株式会社、7/16）
- ・「ap bank fes '10」ワークショップ/つま恋自然観察会（ap bank fes '10、7/16～7/19）
- ・JFN系列全国ネット番組「OH! HAPPY MORNING」（株式会社ジャパンエフエムネットワーク、7/19）
- ・いきものSOS図鑑 写真募集（NHK「SAVETHEFUTURE」プロジェクト事務局、7/23）
- ・瀬戸内海の生物多様性の保全のための第4回三学会合同シンポジウム（日本生態学会・自然保護専門委員会、日本鳥学会・鳥類保護委員会、日本ベントス学会・自然環境保全委員会、7/25）
- ・日本緑化工学会 2010年度公開シンポジウム「みどりの社会」ことはじめ（日本緑化工学会、7/31）
- ・会報「エブオブ」（特定非営利活動法人OWS、7月）
- ・平成22年度 夏休み子供自然観察教室（利根沼田自然を愛する会、8/1）
- ・「科学」10月号（岩波書店「科学」編集部、8/20）
- ・国際ヒメボタルサミット inCOP10 愛知・名古屋（同実行委員会、8/21）

- ・機関紙『エコひょうご』（ひょうご環境創造協会、8月）
- ・映画「オーシャンズ」上映会（映画センター全国連絡会議）
- ・「科学ヘジャンプ」視聴覚障害者全国ネットワーク事業（「科学ヘジャンプ」視聴覚障害者全国ネットワーク、2011年まで）
- ・川崎市地球環境リーダー育成講座（特定非営利活動法人アクト川崎、9/11）
- ・トキが舞う 生きもの豊かな水辺環境を目指して 佐渡島の生物多様性保全を考える（生物多様性保全ネットワーク新潟、9/11～9/12）
- ・フォーラム「渡良瀬遊水池をコウノトリの舞う湿地に」ーラムサール条約登録をめざして（渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会、9/20）
- ・第16回山階芳麿贈呈式と記念シンポジウム（財団法人山階鳥類研究所、9/23）
- ・瀬戸内海の生物多様性の保全のための第5回三学会合同シンポジウム（日本生態学会・自然保護専門委員会、日本鳥学会・鳥類保護委員会、日本ベントス学会・自然環境保全委員会、9/23）
- ・J-BON 日本生物多様性観測ネットワーク（J-BON 農地・草地・里山 WG 長、9月）
- ・「図説 日本の山 ― 自然がすばらしい山 50」（朝倉書店編集部、9月）
- ・ABC 朝日放送ラジオ『アース・ドリーミング～ガラスの地球を救え』（ABC 朝日放送ラジオ、10/1）
- ・日本地理学会秋季学術大会（日本地理学会、10/2）
- ・NHK ラジオ第一放送「ラジオあさいちばん」（NHK ラジオ、10/7）
- ・地域環境アドバイザー養成講座（いわきの森に親しむ会、10/10～10/11）
- ・安蒜豊三夕焼けナビ（東海ラジオ制作部、10/18）
- ・CBD-COP10、サイドイベント『森林で生物多様性を守る～日本から世界へ～』（林野庁経営企画課、10/18）
- ・COP10CEPAFair パネル展示 地球いきもの委員会 インターネットによる普及啓発活動（CBD 市民ネット、10/18～10/29）
- ・子ども COP10 あいち・なごや 国際子ども環境会議（株式会社ニコン、10/21）
- ・「上ノ原は人と生き物の入会地ー暮らしの現場から生物多様性保全を考える」（森林塾青水、10/23～10/24）
- ・世界遺産「屋久島」と都市型里山「相生山緑地」から学ぶものーそれぞれの価値から保全と利用を考えるー（相生山緑地の会、10/24）
- ・風力発電・アセスメント法との関係に係る検討会（環境省政策局アセス評価課、10/29）
- ・赤谷自然観察会（自然観察ちば、10/29～10/30）
- ・第4回コウノトリ未来・国際かいぎ」（第4回コウノトリ未来・国際かいぎ実行委員会、10/29～10/31）
- ・第31回東北自然保護の集い（出羽三山の自然を守る会、10/30～10/31）
- ・信州発ボランティア・地域活性フォーラム in SAKU（社会福祉法人長野県社会福祉協議会、10/30～10/31）
- ・「COP10における NGO 共同宣言」（日本環境法律家連名、10月）
- ・自然環境情報ひろば丸の内さえずり館フィールドイベント（三菱地所株式会社丸の内さえずり館、10月）
- ・「赤谷の森 自然観察会」（株式会社ニコン、11/3）
- ・生物多様性リレーシンポジウム KOBE-HYOGO（財団法人ひょうご環境創造協会、11/12）
- ・第4回地球環境大学（CASA（地球環境と大気汚染を考える全国会議）、11/13）
- ・会報誌「ゆうひろば」（NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」、11/20）
- ・名古屋環境学 第二回講座（名古屋環境大学実行委員会事務局、11/20）
- ・背振の山野草セミナー（背振の自然を愛する会、11/21）
- ・大阪バードフェスティバル 2010 COP10 報告会（大阪自然史センター、11/21）

- ・シンポジウム「野生動物への餌づけを考える」（ナキウサギの鳴く里づくりプロジェクト協議会、11/23）
- ・地域自然情報研究会（特定非営利活動法人地域自然情報ネットワーク、11/23）
- ・生物多様性 COP10 NGO 連携フォローアップ会合（特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）、11/25）
- ・身近な宇宙・地球・生命のサイエンスカフェ銀河と生命のサロン「動物と地球」（ファンタジアネット、11/26）
- ・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科講義「NGO/NPO 論」（早稲田大学非常勤講師 大橋正明、11/26）
- ・シンポジウム「生きもの地図を未来へ～浜口哲一さんの足跡と、これからの道」（日本野鳥の会神奈川県支部、11/27）
- ・資生堂社員親子向け自然観察会（株式会社資生堂 CSR 部社会活動グループ、11/28）
- ・みんなの力で守ろう三番瀬！（みんなの力で守ろう三番瀬！の集い実行委員会、11/30）
- ・第 7 回タカの渡り全国集会 in 関東（八王子・日野カワセミ会、12/4）
- ・生物多様性条約 COP10 の成果と課題（財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク MELON、12/4）
- ・エコプロダクツ展「環境」就職相談会（エコ・リーグ「環境」就職進路相談会運営スタッフ、12/11）
- ・研究セミナー「住民参加型の生物調査とはなんだったのか～その成果と課題」（琵琶湖県立博物館、12/11）
- ・九州自然協議会（自然観察指導員熊本連絡会（自然観察くまもと）、12/11～12/12）
- ・ナショナルジオグラフィック日本版パンフレット（日経ナショナルジオグラフィック社、12/14）
- ・e-ビジネス異業種交流会（e-ビジネス異業種交流会、12/14）
- ・生物多様性条約 COP10 の成果と課題（生物多様性 チーム江東実行委員会、12/17）
- ・生物多様性条約 COP10 の成果と課題（上智地球環境学会、12/20）
- ・ポスト COP10 フォーラム（COP10 支援実行委員会、1/16）
- ・COP10 の成果と生態系サービス（帯広畜産大学畜産生命科学部門、1/18）
- ・第 5 回全国チョウ類保全シンポジウム（日本チョウ類保全協会、1/22）
- ・江東区ネイチャーリーダー初級講座「市民活動と生物多様性」（NPO 法人ネイチャーリーダー江東、1/23）
- ・IUCN-J 将来行動計画ワークショップ（国際自然保護連合日本委員会、1/29～1/30）
- ・第 10 回草津市こども環境会議（第 10 回草津市こども環境会議実行委員会、2/5）
- ・セミナー「今後につなげよう、生物多様性～名古屋 COP10 の成果とは？」（徳島大学、2/5）
- ・e ビジネス異業種交流会（財団法人マルチメディア振興センター、2/9）
- ・生物多様性長野県戦略策定にかかわる講演（長野県環境部自然保護課、2/11）
- ・第 4 回東京都都民環境セミナー（東京都環境学習リーダー連絡会、2/19）
- ・共同印刷グループ報「kyoD0」4 月号（共同印刷株式会社、2 月）
- ・制度実施ヒアリング調査（環境省総合政策局環境影響審査課、3/2～3/9）
- ・民主党サンゴの里海を元気にする議員連盟（民主党サンゴの里海を元気にする議員連盟、3/3）
- ・自然環境情報ひろば丸の内さえずり館フィールドイベント（三菱地所株式会社丸の内さえずり館、3/5）
- ・アース・ビジョン第 19 回地球環境映像祭（アース・ビジョン組織委員会事務局、10 月、3/4～3/6）
- ・江東区ネイチャーリーダー上級講座「まちと身近な自然を知る市民調査」（NPO 法人ネイチャーリーダー江東、3/5～3/6）
- ・2011 九州環境教育ミーティング in くまもと（同実行委員会、3/5～3/6）
- ・NGO 連携フォーラム地域の声をアジアの持続可能な地域作りのための国際協力政策へ（認定 NPO 法人持続可能な開発のため教育の 10 年推進会議、3/8）
- ・生物多様性チーム江東 2010 年度活動報告書（生物多様性チーム江東実行委員会、3/10）
- ・シンポジウム「生態系と人間～地域と描く里山・里海の未来」（横浜国立大学・国立環境研究所グローバル

COE プログラム「アジアの視点の国際生態リスクマネジメント」、3/16)

- ・院内集会 奇跡の海を守ろう！カンムリウミスズメと上関の生物多様性（長島の自然を守る会、3/18）
- ・環境省受託事業「生物多様性 COP10 に向けた国際協力 NGO の連携調査業務」 「生物多様性 COP10 に向けた研究会の開催」（特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）、3/24）
- ・「NGO 活動成果報告会」（経団連自然保護協議会事務局、3月）
- ・「第6回わくわくアートコンテスト」審査員（高尾の森わくわくビレッジ）

別表 5. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
437	6/11-13	東京都	八王子セミナーハウス	帝人株式会社・トステム株式会社・五洋建設株式会社	62
438	6/25-27	千葉県	千葉市ユースホステル	千葉県	64
439	7/17-19	秋田県	秋田県森林学習交流館プラザクリプトン	秋田県自然観察指導員連絡協議会・秋田県生活環境部自然保護課	53
440	7/17-19	神奈川県	富士ゼロックス株式会社塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	57
441	7/30-8/1	福井県	福井県立芦原青年の家	福井県自然保護センター・福井県自然観察指導員の会	47
442	9/18-20	京都府	平安会館	NPO 自然観察指導員京都連絡会	60
443	9/24-26	新潟県	国立妙高青少年自然の家	新潟県自然観察指導員の会	40
444	10/1-3	神奈川県	神奈川県立かながわ女性センター	神奈川県自然観察指導員連絡会	59
445	10/9-11	鳥取県	鳥取砂丘・ホテル砂丘センター	自然観察指導員鳥取連絡会	36
446	11/5-7	大分県	九重青少年の家	大分県自然観察連絡協議会	64
447	11/27-29	埼玉県	埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園	埼玉県	61

別表 6. プロ・ナトゥーラ・ファンド 第 21 期助成先

(万円)

テーマ	国内グループ名 ／海外申請者名	助成額
(1) 国内研究助成		
絶滅危惧種シマフクロウの種保全をめざした個体識別・遺伝的多様性の解析と遺伝子資源保存システムの確立	北方鳥類多様性研究グループ	119
大村湾に生息するスナメリの保全に関する研究	大村湾スナメリ研究グループ	150
南アルプス高山生態系の保全を目的としたニホンジカの生態学的研究(継続)	信州大学ニホンジカ研究チーム	98
芦生冷温帯天然林における大規模シカ防除柵設置 5 年後の生態系機能の回復過程とそのメカニズムに関する研究(継続)	芦生生物相保全プロジェクト(ABC project)	150
オガサワラオオコウモリの生息状況と海洋島生態系での役割の解明	海洋島オオコウモリ生態研究会	120
奄美大島固有の絶滅危惧種、アマミヒイラギモチの繁殖と更新	奄美大島生態系研究会	100
栃木県奥日光地域におけるニホンジカの高密度化がネズミ類とその捕食者に与える影響	奥日光野生動物研究グループ	98
日本産絶滅危惧水生植物の現状、特に情報の不足する種の実態解明	神戸大学水草グループ	93
利尻島の湿原の生態系保全と自然史教育のための環境史・植生史に関する研究	利尻・礼文自然史研究会	149
(2) 国内活動助成		
伊豆諸島御蔵島・三宅島植生誌編纂	伊豆諸島植生研究グループ	54
普及・啓発・提言事業 生物多様性条約とラムサール条約によって保全する湿地の生物多様性(継続)	NP0 法人ラムサール・ネットワーク日本	174
調査研究に基づいたこんぶくろ池湿地の植生管理指針策定と環境教育教材作成	NP0 法人こんぶくろ池自然の森	103
野生動物保護と自然の研修(継続)	野生動物保護施設ネットワーク	56
子供達とともにを行う自然環境再生事業を通じた低地林保全活動	子供達に身近な自然の大切さを伝える会	80
北海道淡水魚保護フォーラム 「川底からの河川再生」	北海道淡水魚保護ネットワーク	49
北陸地方におけるウミガメの調査と保護活動	福井県立大学ふくいうみがめサークル	70
(3) 海外助成		
西南中国雲南省における絶滅危惧種水青樹 (<i>Tetracentron sinense</i>) 個体群の保全に関する研究	唐 勤	108
マレーシア熱帯多雨林地域の放棄されたゴム、アカシア単一種植林地の復元生態学的研究	Baki Bakar	101
ブータンヒマラヤの亜熱帯常緑広葉樹林における標高傾度に沿った遺存性植物種と生育地の保全	Pema Wangda	100
計 19 件		1972